

正氣歌俗解

全

121.8

H982Ks



国立国会図書館 タイトル『正氣歌俗解』 請求記号 121.8-H982Ks

ガラス使用

121.8H982Ka



正氣歌俗解序

東湖先生志在經綸事業。文執特緒餘耳。故平生有所感觸於懷。輒或作為詩文。亦唯寓一時之興趣。棄而不顧也。雖然其骨力氣魄。磅礴於一世者。自見於詞章之間。使人愈讀而愈不倦。是以世人多愛慕之。其正氣歌一篇。流傳最廣。頃日鄉里兒輩。質余以詩中事故。余卒意錄出以授焉。兒輩大喜。欲刻而置諸家塾。嗚乎一時妄解。何足以災梓。且余嚮蒙 譴責。藏書悉沒收。無復一部遺於架上。以故不能一一點檢。何能無紕繆。雖然此書意在省鄉童謄寫之勞耳。

正氣歌俗解序

春山樓藏梓

慶應丁卯仲秋鐫

正氣歌俗解

春山樓藏梓

国立国会
25.3.31
図書館

112369

固非敢公於世。豈足深拒乎。因付剗刷云。此歌有先
生舊序。簡明流暢。能發其作意。而今解不及者。以流
布摺本無之也已。

慶應丁卯中元前一日逝者如斯學人識

正氣歌俗解

下毛 小山弘 解

正氣歌

此歌ハ水戸藤田東湖先生ノ作ナリ。昔シ宋ノ
末代ニ。文天祥ト云人。博學宏才ニシテ。其性忠
孝ナルヲ以テ。義軍ヲ起シ天子ノ詔ニ應シ。力
ヲ竭シテ。興復ヲ謀リシモ。天運既ニ宋ヲ厭ヒ。
社稷ト滅シ。天祥モ元ノ囚トナリ。二年ノ間獄
中ニ在リ。頗ル艱苦ヲ極メ。其時正氣歌一篇ヲ



造リシナリ。東湖先生平生此歌ヲ愛シ。天保甲辰ノ歲烈公疑ヲ幕府ニウケ。退ケラレ玉ヒシ時。先生亦罪ヲ蒙リ。小梅ノ邸中ニ幽閉セラレ。感慨ノ餘リ。天祥ノ歌ニ倣ヒ。此ヲ造ラレシナリ。先生名ハ彪。字ハ斌。水府ノ側用人ヲ勤メ。學校奉行ヲ兼タリ。

天地正大氣

凡天地ノ間。萬古ヨリ今日ニ至ル迄。活動シテ息ムコトナキ。皆氣ヲ以ナリ。夫日月ノ運ル。山岳ノ峙ツ。江河ノ流ル。人物草木ノ生殖スル。總

テ氣ノ資ルニ因テナリ。而シテ人ハ萬物ノ靈ニシテ。其性自ラ善ナリ。仁義禮智モ固ヨリ具_{モト}有ナレト。生レテ聖凡ノ隔アリ。故ニ情欲ノ為ニ固有ノ徳ヲ蔽ハレ。其氣モ亦正キコトヲ得ス。叔氣ノ正ヲ得シニハ。第一學問シテ道義ヲ養ヒ。平生ノ坐起。萬ニツケ私欲ナク。言ヲ謹ミ身ヲ省ミ。行ニ表裏ナク。天ニモ地ニモ愧ルコトナキヤウ心掛レバ。自然ト體中ノ氣正キヲ得ルナリ。孟子養浩然之氣トハ是ナリ。全ク此氣ヲ養ヒ得ルニ及テハ。其身天地山岳ト齊_{ヒト}フシテ



威武モ屈スルヲ能ハス。水火モ犯スヲ能ハス。猛獸毒蛇モ害スルヲ能ハサルナリ。行テ而不ハ慊カラ於心則餒ト。孟子ノ宣ノフ如ク。少ニテモ心ニ斯レシテハ濟ヌト思ヒナカラ。身ニ便利ナル故。不善ノ事ヲ行フ。是則心ニ快カラヌニテ。此氣餒ルナリ。正氣充レハ正人君子トナリ。餒レハ小人ニ陷ル。學者油斷ナク。此正氣ヲ養ヒ得ルノ工夫コソ肝要ナレ。粹然ニ鍾ル神州。右ノ正氣粹然ト。少モ濁邪ノ氣混セス。キツス

イニ我日本ニ凝リ聚テ。萬國ニ勝レシヨキ國トナレリ。神代ノ古ヨリ。今日ニ至ルマデ。皇紗連綿ト。君臣ノ義正シク。下ノ風俗淳厚ニシテ。日出度御國ナルハ。天地ノ正氣。我國ニ充レハナリ

秀為不二嶽巍巍聳千秋

是ヨリ正氣ノ物ニ寓シテ。我日本ノ勝レシヲ解ク。先第一ニ富士ト云名山アリ。古ヨリ今ニ替ラス。巍ト高ク大ニ。萬邦ヨリ望ミ仰キ。國ノ鎮護トナル者。則天地ノ間ニ充滿スル正



大ノ氣。此山ニ聚リテ固メル故ナリ。

注、為、大瀛水、洋洋環八洲、

大瀛ハ大海ナリ。洋々ト充滿流動シテ。國ヲ環
リ流ル、ナリ。昔日本ヲ大八洲國ト称セシ
ナリ。夫萬國海アリト雖モ。日本ノ如ク四方
八面。大海ノ廻リシ國ハナシ。故ニ海岸ニサヘ
備アレハ。何方ヨリモ寄付テ能ハス。誠ニ天險
ノ固メナリ。林子平カ所謂日本ト云一箇ノ大
城ナリト云シモ宜ナリ。

發、為、萬朶櫻、衆芳難與儔、

扱我邦ニ櫻ト云一種ノ名葩アリテ。異國ニ
ハ此花ナシ。淡紅嬋妍トシテ。一點ノ俗氣ナク。
固ヨリ衆花ノ比スル所ニアラス。是我東方
英華ノ氣。如此ノ靈卉ヲ生ス。是亦神州ノ勝
レシ所。本居宣長ノ歌ニ。シキ島ノ大和心ヲ人
トハハ。旭ニニホフ山櫻花。ヨク此花ノ精靈ヲ
盡セリ。

凝、為、百鍊鐵、銳利可斷、

金銀銅鐵ハ。國土ノ至精ニシテ。天下ノ至寶ナ
リ。就中鐵ハ。戎具ヲ製シ器械ヲ造リ。實用ニ於



テ鐵ホト貴キハナシ。然ルニ日本ニ出ル所ノ鐵ハ其品堅剛ニシテ。刀劍トナシ用レハ其銳利。甲冑ヨイカブ整モ斷チキルヘシ。異國ニモ古來日本刀ト稱シ。其精鍊ヲ賞スル。歐陽修ノ日本刀歌ニテモ知ルヘシ。扱以上ハ正氣ノ物ニ寓スルヲ云テ此下段ハ人物風俗ノ正氣ヲ帶テ美ナルヲ解ク。

蓋臣皆熊羆武夫盡好仇

蓋臣熊羆武夫好仇。共ニ詩經ニ出ツ。勝レシ臣下アルヲ云。別シテ日本ノ昔ハ。風俗敦厚ニ

シテ。朝廷ノ臣。皆忠亮ナラサルハナク。常ニハ政ヲ行ヒ民ヲ撫テ。事アレハ戎具ヲツケテ出征シ。亂ヲ定メ邦ヲ守ル。後世公卿文弱軟媚ノ如ニアラス。故ニ周室ノ盛ナル時。熊羆ノ如キ猛士蓋デ邦ヲ守リシ。其詩ノ字面ヲ以テ是ヲ贊セルナリ。

神州孰君臨萬古仰。天皇

夫此神州ニ君トシ。萬民ヲ治メ玉フハ。抑何如ナル御方トナレバ。畏クモカレコ天照大神ノ御末。彦波斂武鸕鷀草薙不合尊ノ御子。神

112368

武天皇。日向國ヨリ中國ヲ平定シ。大和ノ檀原
 ニ都ヲ奠メ玉ヒシヨリ。今上皇帝ニ至リ。
 數千年一日モ替ルナク。天地ノアラス限リ
 動キナキ。天祖ノ御誓言ノ如ク。誠ニメ
 テタキ御事ナリ。故ニ下萬民ニ至ルマデ。
 天皇ヲ尊フ。天日ノ如ク。神代ノ系紡連
 綿タル。萬國ニ唯我神州ノミ。仰キ崇ムベ
 キナリ。
 皇風洽六合。明德侔大陽。
 神武天皇天下ヲ紡馭シ玉ヒシヨリ。世々相承。

朝廷ノ徳暉。上下四方ノ六合ニ行ワタリ。四民
 安ラカニ業ヲ勤メ。永ク王化ニ浴スル。其徳ノ
 明カナル。天日ノ下上ヲ照シ。一草一木モ其
 影ヲ被ラサル無カ如クナリ。
 不世無汗隆正氣時放光。
 然レ世ノ遷ルニ隨ヒ。ヨキ事ノ有リ能ハ
 ス。又畏キ神胤ノ君ニテモ。菲徳ノ君モ出。
 不仁ノ君モ出。天災地妖モアリ。惡人逆威ヲ恣
 ニスルモ有テ。遂ニハ争亂ヲ生セシメタルハ。
 是亦天地ノ變ニシテ。已ムヲ得サルナリ。汗

正氣歌俗解

春山樓藏



ハクダルナリ。隆ハサカンナルナリ。隆世ノミ
 有テ。汗世ナキヲ能ハスト云ナリ。扱其汗世ノ
 時ハ。濁邪ノ氣流行シテ。善惡邪正。更ニ辨別ナ
 キヤウナル時ナリ。サレバ潜伏スル所ノ正氣。
 何物ニカ寓シテ。人心ヲ感發シ。忠義ヲ鼓舞シ。
 不目ザマシキ事アリテ。邪氣ヲ壓伏スルナリ。是
 則時運否塞シテ。正氣屈スルノ節ナレバ。遂ニ
 亾スルヲ無ク光ヲ放ツナリ。一草一木ノ其
 乃參大連議侃侃排瞿曇。王山谷人其熱
 人皇二十八代欽明天皇ノ御宇。佛法始テ渡来

シ。大臣蘇我稻目。深ク是ヲ信ジ。朝廷ニ薦メ
 テ大ニ崇奉セシトス。時ニ物部尾輿中臣勝海。
 是ヲ斥ケンテヲ請ケレバ。帝是ニ從ヒ。獨
 稻目ノ奉スルヲ允シテ五ヘリ。其後稻目ノ子
 馬子。益々佛法ヲ信シ。大ニ佛寺ヲ建立セシニ。
 尾輿ノ子大連守屋建白シテ云。我國ハ神明ノ
 邦ナリ。何ゾ夷狄ノ教法ヲ信シ。胡神ヲ敬シテ。
 人心ヲ蠱惑センヤト。衆議ニ泥マス。侃々トシ
 テ論諍セルハ。剛直ノ大臣ト謂ヘレ。然レバ時
 運既ニ佛法ノ弘マル機合ユヘ。其言用ヒラレ

正氣歌俗解

卷山樓藏



却テ姦臣ノ為ニ討レ。叛臣ノ汚名ヲ取レモ。
 世ヲ歴テ其議ノ正キヲ顯ハレ。長ク神州ノ
 忠臣ト云ルハ。則大連ノ正氣。千載朽ザルナ
 火。瞿曇ハ佛ヲ云ナリ
 乃助明主。斷焰焰焚伽藍。
 蘇我馬子。厩戸皇子等。深ク佛法ヲ崇敬シ。一時
 靡然トシテ是ニ從フ。其後疫癘大ニ行レ。士庶
 死凶スル者。幾万人ヲ知ラス。時ニ朝士奏シテ
 云。是異邦ノ教法ヲ奉スルヲ。神明ノ怒ラセ
 玉ヒ。如此災害ヲ降セルナリト。是ニ於テ。

敏達天皇斷然トシテ佛寺ヲ焚キ。佛像ヲ廢棄
 ン玉フ病災亦從テヤミヌ。

中郎嘗用之。宗社磐石安。

中郎ハ鎌足公ナリ。皇極天皇ノ時。蘇我入
 鹿ト云者。朝權ヲ握リ僭恣放侈ニシテ。遂ニ
 神器ヲ覬覦セントス。此時朝廷危キヲ累卵
 ノ如ナリシニ。中臣鎌子。鎌足公中大兄皇子後
 位称天ト相謀リ。入鹿ヲ誅シ。朝廷ヲ清メ。其
 後禮ヲ制シ學ヲ興シ。宗廟社稷ヲシテ。磐石ノ
 如ク安カラシム。後世天智帝ヲ中宗ト稱

正氣歌俗解

卷山桂齋

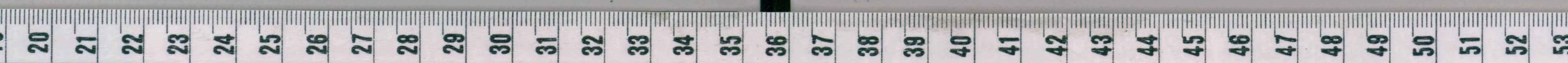


レ宗ムル者。偏ニ中臣ノ大勲ナリ。
 清丸嘗用之妖僧肝膽寒。
 孝謙天皇弓削道鏡ヲ嬖シ玉ヒ。万ツ彼カ姦計
 ニ從ヒ。遂ニ帝位ヲ道鏡ニ讓ントス。然レ我
 邦古来。天位ヲ他ニ讓ルコトナキ故。宇佐八幡宮
 ノ神託ヲ受ント。和氣清麻呂ヲシテ。宇佐宮ヘ
 遣ハシ。神意ヲ伺ハシム。時ニ道鏡大ニ威權ヲ
 示シ。清麻呂ヲ脅カシテ曰ク。汝予ニ帝位ヲ讓
 ルヤウ神託ヲ告バ。汝ニ高爵ヲ授ケ。重ク賞ス
 ヘシ。若然ラスンバ。必汝ヲ殺スヘシト。是ニ於

テ。清麻呂退テ宇佐宮ニ詣リ。神勅ヲ受テ京ニ
 歸リ。直チニ參内シ。謹テ言スヤウ。夫吾國ハ神
 國ナリ。千萬世ノ後マテ。天日嗣ハ替ラセ
 マシキニ。况テ道鏡如キ。卑賤ノ奸僧。叨リニ
 天位ヲ窺フ。憎ムヘキノ甚キ。速ニ逐退ケスン
 ハ。主上ノ御身ニモ。大ナル禍アラント。
 神語嚴カニ宣ラレシカハ。滿朝皆色ヲ失フ。此
 時道鏡大ニ怒リ。汝神託ト偽リ。朝政ヲ誹謗ス。
 其罪容スヘカラズトテ。清麻呂ノ筋ヲヌキ。名
 ヲ穢麻呂ト更メ。大隅國ヘ流セリ。去レテ清麻

正氣歌俗解

春山樓藏



呂少モ屈セス。泰然トシテ怖ル、色ナク。配所
 へ赴ケリ。扱讓位ノ議モ。是カ為ニヤミテ。其後
 道鏡罪露レテ。下野國へ遷サレ。寶祚彌々
 動キナキハ。實ニ和氣公ノカニ頼レリ。嗚乎此
 時公ノ一言山岳ヨリ重シト云ベキナリ。
 忽揮龍口、劍虜使頭足分

元、忽必烈ト云者。文永五年。使ヲ我邦へ遣ハ
 シ。朝貢ヲ求ム。時ニ鎌倉執權北条時宗。是ヲ許
 サズ。彼使ヲ鎌倉龍口ニテ誅殺シ。遍ク諸國ニ
 令シ。外寇ノ来ルヘキヲ知シム。果シテ元主大

一怒リ。弘安四年ニ至リ。十萬ノ軍兵ヲ起シ。海
 ヲ掩フテ来リシモ。時宗ノ威令行届キシ故。遂
 ニ胡兵ヲ悉ク討滅セリ。

忽起西海颶怒濤殲胡氛

右ノ合戦中ニ。海風烈ク起リ。胡元ノ軍艦。漂没
 四散。散々ニ亂レシ所。元ヨリ血氣ノ吾兵。勢ニ
 乗テ戦ヒシカハ。討レヌ者ハ水ニ溺レ。溺レヌ
 者ハ討レ。十萬ノ兵衆悉ク覆ヒシ。國ニ返ル者
 僅ニ三人ナリキ。實ニ愉快ノ事ナリケリ。抑此
 風偶然ニ起ルニ非ス。闔國君臣。外寇ヲ打攘シ



ト。上下一致シテ。護國ノ精誠天地ニ感通シ。時ニ臨テ。不測ノ大風ヲ起セルナリ。後世稱シテ弘安ノ神風ト云。亦宜ナル哉。

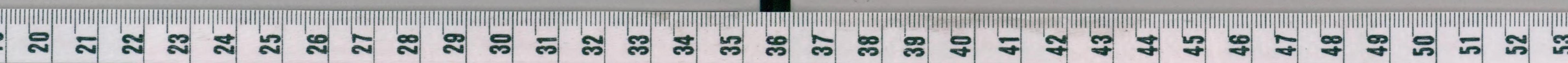
志賀月明夜陽為鳳輦巡

後醍醐天皇ノ御時。北条高時不臣ニシテ。屢々兵力ヲ以テ天闕ヲ犯シ。或時主上ヲ拘幽シ奉ント謀リシヲ。朝廷是ヲ覺リ。主上ヲ竊カニ落シ奉ラントシテ。大納言師賢卿。袞龍ノ御衣ヲ被リ。偽テ叡山へ御幸シ。其隙ニ主上ハ微服シテ。近臣數人ト。笠置へ竄レサセ

玉ヘリ。時ニ元弘元年八月。折シモ湖上ノ月面白カリケレバ。師賢卿思フコト無テゾ見マシホノボノト有明ノ月ノ志賀ノ浦波ト詠シ玉ヒシ。

芳野戰酣日又代帝子屯

護良親王ハ大塔宮ト稱シ。後醍醐天皇ノ御子ナリ。英邁ニシテ膽略アリ。元弘ノ復辟ハ。此宮ノ力多シ。初メ芳野ニ籠リ玉ヒシ時。北条氏。大軍ヲ以攻圍シ。兵少フシテ守リ難ク。城既ニ陷ントス。此時村上彦四郎義光宮ノ戰袍ヲ



被リ。城樓ニ登テ。護良今戰死セント。大ニ呼ハ
リケレバ。敵勢ヲ得テ。外ノ圍自カラ解タリ。宮
ハ其隙ニ落延ヒ。山間ニ潛ミ。辛フシテ危難ヲ
免レ。遂ニ大業ヲ中興ス。屯ハ難ナリ。帝子ノ難
ニ代リシトナリ。

或投鎌倉窟憂憤正恨恨

古今枉冤ノ獄多シト云凡。大塔宮ノ一程悲憤
ナルハナシ。夫北条數代ノ悖逆ヲ滅シ。歴
帝ノ深恥ヲ雪キ。天皇ヲ舊都ニ還セル。其
大業ヲ就ス。半ハ此宮ノ功ニシテ。サセル罪

ナキニ。主上准后ヲ嬖幸シ。唯其言ヲ信用
シ玉ヒケレバ。足利尊氏准后ニ媚諂ヒ。大塔宮
ノ英邁ヲ忌。頻ニ是ヲ讒奏シ。失ヒ奉ントス。
主上暗ニシテ此ヲ悟ラス。宮ヲ拘ヘテ幽閉シ。
遂ニ是ヲ足利氏ニワタシケル。足利ハ日頃ノ
嫉ム所。十分ニ甘心セントス。故ニ宮ヲ鎌倉へ
下シ。土窟へ押込。種々ノ慘酷ヲ施シ。遂ニ淵邊
伊賀ト云。卑キ奴ニ命シテ。害シ奉リシ。誠ニ
無慚ノ至リナリ。今ニ至テ此ヲ思ヘハ。實ニ憂
憤ニ堪ザルナリ。



或伴櫻井驛遺訓何慙慙

元弘復辟ノ大業。固天運ニ由ト云氏。楠正成忠
勤ノ功ナクンバ。何ゾ速ニ恢復スルヲ得ン
ヤ。北条氏恃逆ト云氏。數代儉素ヲ守リ。民ヲ撫
育シ。兵カヲ養ヒ。人和ヲ得ル。源氏足利氏ノ
如ニアラズ。故ニ此時士民寧口天子ニ負クモ。
鎌倉ニ負カズ。此時ニ當テ。是ヲ動ス。實ニ難
シ。楠公慨然トシテ大義ヲ倡ヒ。百萬ノ軍ヲ一
城ニ引受ケ。四方勤王ノ士ヲ待ツ。此ニ於テ天
下忠義ノ士。東西ニ起リ。鎌倉ヲ込ボシ。數世ノ

賊徒。瞬息ノ間ニ滅スル。誠ニ楠公首唱ノ功
ナリ。然ルニ成功ノ後。重ク是ヲ用ヒズ。萬事ノ
處置。宜シカラザル故。四方ニ叛亂ノ者出来。天
下又大ニ亂レ。足利氏勢ヲ得テ。九州ノ軍ヲ催
シ。海陸共ニ攻上リケレバ。京畿大ニ震動シ。評
議マチクナリ。此時楠公萬全ノ良策ヲ建白セ
シニ。參議清忠是ヲ非トシ。直チニ楠公ニ命シ
テ。出テ拒カシム。公時事ノ既ニナラザルヲ見
限リ。櫻井驛ニテ子正行ニ遺訓シ。成長ノ後父
ノ志ヲ繼キ。王家ニ勤勞スヘキ旨。懇口ニ



告誠シ。訣レテ攝州湊河ニ一死ヲ快クシ。其精忠義烈。凜々トシテ人ヲ感泣セシム。去バ正行能遺訓ヲ守リ。終ニ四條啜ニ戦死シ。千載ノ後マデ。父子ノ忠義ヲ讚歎スルヲ。楠氏ノ正氣。宇宙ニ塞ルト云ベシ。

或徇天目山幽囚不忘君

武田勝頼。佞臣ヲ用ヒ。忠士ヲ斥ケ。國日々ニ蹙リ。織田氏ノ為ニ攻ラレ。天目山ト云山中ニ逃入。残リシ者僅ニ四十餘人ノミ。君臣共ニ死ヲ旦夕ニ待ツ。此時小宮山内膳ト云者。先ニ勝頼

ノ勘氣ヲ被リ。幽閉シテ家居セシニ。國家ノ大難ヲ視ニ忍ヒズ。竊カニ此處へ来リ。主君ノ難ニ殉ハントシ。上屋宗藏ヲ以テ。勘氣ヲ許サレシトテ請フ。元来内膳ハ忠正ノ士ナレト佞臣ニ嫉マレ。勝頼亦讒ヲ信シテ押込シナリ。去ハ傲狼ノ勝頼モ。涙ヲ流シ。彼カ志ニ慚ケレト及ブベキニアラズ。扱内膳ハ殘兵ト共ニ。美事ニ一戦シ。遂ニ討死セリ。其忠勇慷慨。尚フベキ事ナリ。

或守伏見城一身當萬軍



慶長庚子。烈祖東征シ玉フ時。預メ西國ニ亂
アルヲ知リ。鳥井彦右衛門尉元忠ヲシテ伏見
城ヲ守ラシム。元忠必死ヲ期シテ大軍ヲ引受
ケ。孤城ヲ守リ。力盡テ戰死ス。其忠烈凜々。士風
ヲ鼓舞スルニ足レリ。関原ノ下。遍ク知ル所故
此ニ録セス。

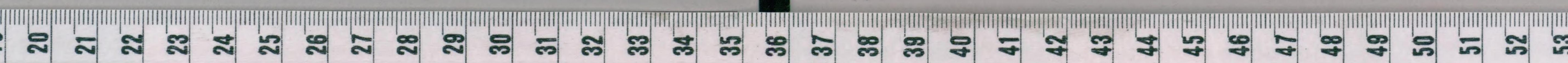
承平二百歳斯氣常獲伸

烈祖冬河ヨリ興リ。群雄ヲ紗御シ。武以テ亂ニ
戡テ。文以テ國ヲ治メ。上下恬然ト。二百餘年太
平ノ化ニ靡キ。且驕奢ヲ抑ヘ。廉恥ヲ尚ヒ。士民

忠厚淳朴ニシテ。四海ノ内草木ノ末マテモ動
カヌ御代トナリシハ。誠ニ天地ノ正氣伸ルノ
時ト云ベキナリ。

然當其鬱屈生四十七人

上ノ如ク太平ノ御代ナレト。年遷ル間ニハ。天
災地變モアリ。又惡人ノ出ルモアリ。是亦天地
間伏藏スル所ノ邪氣動クナリ。茲ニ元祿年間。
吉良吉英ノ私欲ヨリ。淺野長矩ノ家斷絶シ。一
家中皆退散セリ。此事天下ニ於テハ小ナレト。
風教ノ係ル所。實ハ細故ニアラズ。此時淺野家



ノ老臣大石良雄。竊カニ同志四十七人ト契盟
シ。隱忍時ヲ待テ。吉良氏ニ討入。其首級ヲ以テ。
故君ノ墳墓ヲ祭リ。其幽寃ヲ慰ス。精忠義烈。今
ニ至テ稱セサル者ナシ。且良雄等ノ所為。從容
閑雅。艱苦ヲ忍ヒ大事ヲ為シ。遂ニ捨生取義。
固ヨリ血氣ノ勇ニアラズ。浩然ノ氣餒ザル者
ト謂ヘキナリ。

乃チ知ル人雖凶。英靈未全。泯長留天地間。隱然叙彝倫。
人生限リ有テ上壽ト云氏。百年ニ過ルヲ能ハ
ズ。唯其忠孝義烈ノ人ハ。形骸死スト云氏。其氣

魄天地ノ間ニ留テ。イツ迄モ盡ルヲナシ。譬ヘ
ハ今清丸道鏡ヲ挫クノ事ヲ聞バ。自ラ其忠烈
ヲ感シ。道鏡ヲ惡ム。仇ノ如シ。又楠公父子ノ
忠勇ヲ談スレハ。慨然トシテ其業ノ終ザルヲ
歎シ。高氏ノ姦邪ヲ憎ム。是乃ニ公ノ正氣。天地
ノ間ニ留リテ。人ノ肺腑ヘ感徹シ。自然ト良心
ヲ興起スルナリ。去レハ貴キ人間ニ生レ出テ。
忠孝仁義ノ何事タルヲ知ス。身ニ一箇ノ善行
ナク。日夜汲々トシテ功利ヲ逐ヒ。死シテ草木
ト同ク朽果ル。憫ムヘク痛ムヘキノミ。

孰能扶持之。卓立東海濱。忠誠尊皇室。孝敬事

天神。...

扱承平無事ノ時。右ノ正氣モ。何方ニ在ルヤ。其

顯ハル。程ノ事ナケレバ。何ニ就テ此氣ヲ持

張リスルト云ヘハ。水戸威義ニ公。何レモ天資

英明ニシテ。封土ヲ東海ノ濱ニ受ケ。天朝

ヲ尊ヒ神祇ヲ崇敬シ。古来ノ名祠。廢絶スルハ

悉ク再興シ。尤謂ヒナキ淫祠ハ毀チ棄テ。殊ニ

義公大ニ文教ヲ起シ。賢ヲ禮シ。士ニ下リ。大日

本史。禮義類典等ノ大著作ヲ成就シ。神皇

ノ道ヲ萬世ニ明カナラシム。今賤陋ノ我々マ

デ。國體ヲ知り。名義ヲ辨スル。此公ノ賜ナリ。

抑義公ノ大徳善政ニ至テハ。舉世ノ知ル所故。

此ニ収メセス。

脩文兼奮武誓要清胡塵

源烈公襲職ノ初ヨリ。能義公ノ遺志ヲ承キ。儉

ヲ尚ヒ。奢ヲ抑ヘ。大ニ弘道館ヲ設ケ。文教ヲ明

ニシ。演武場ヲ造リ。武伎ヲ試ヒ。追鳥狩ヲシテ

大閱シ。萬ノ政。悉ク一新ス。且此時外夷漸ク強

大ニシテ。萬國ニ渡リ。既ニ我邦ヲ窺フ。公深



夕是ヲ憂ヒ。屢々幕府ニ建白シテ。海防ノ策
 ヲ述。就中大艦ヲ製造シ。蝦夷ヲ開拓スル等ノ
 議ハ。無前ノ卓見ニシテ。炯眼炬ノ如シト云ヘ
 キナリ。
 一朝天步艱。邦君身先淪。
 烈公ノ建議。俗論ト異ニシテ。人ノ耳眼ヲ駭カ
 ス。ノミ多ク。此時承平既ニ久シク。人情偷安
 ニ慣習シテ。公ヲ忌嫉ム者甚々多ク。遂ニ冤罪
 ヲ被リ。天保甲辰ノ夏。駒込ノ邸中へ廢居シ玉
 フ。時ニ御年四十六ナリ。

頑鈍不知機。罪戾及孤臣。

是ハ先生激シテ云ノ語ナリ。已レ正議ヲ守リ。
 忠道ヲ以君ニ事リ。世ノ陋習ヲ一變セント謀
 リシニ。遂ニ罪ヲ主君ニ負セ。其身モ譴責ヲ蒙
 リシ。實ニ頑鈍ニシテ。禍危ヲ逃ル。ハノハツ
 ミヲ知ラヌ故ナリト。歎息スルハ。自ラ正道ヲ
 守リ。利害得失ニ心ヲ動カサザル氣象。此中ニ
 見ヘタリ。

孤臣困葛藟。君冤向誰陳。

困葛藟ハ易ノ文ナリ。葛ノツルナドニカ、リ



テ。身ヲ動スナラヌナリ。囚トナリテ一室ニ
 押込ラレ。何方ヘモ便リサヘナラス。主君ノ
 幕府ヨリ疑ヲ受玉ヒシ。明カニ言解ク理ア
 レ。此身誰ニ告ケ懃ルモナラヌトナリ。
 孤子遠墳墓何以謝先親
 人ノ子タル者ハ。故郷ニ在テ。父母先祖ノ墳墓
 ヲ守リ。遺業ヲ墜サズシテ。父母ノ附託ヲ背カ
 ヌヤウ致スベキニ。今孤囚トナリテ。屈辱ヲ他
 郷ニ受ケ。先祖親ヘ對シ言ワケスベキ辭モナ
 シト。英雄鐵石ノ心腸ヲ傷マシムル。尤哀レ

深シト謂ベシ

荏苒二周星唯有斯氣隨
 荏苒ハ長引ナリ。斯氣ハ正氣ナリ。段々ト月日
 モ遷リ。二年ノ間幽中ニ在テ。何愉快ノ事ナク。
 ブラミトシテ歳ヲ送ル中。唯此一片ノ正氣
 ハ身ニ隨テアル故。カ、ル艱難ニ遇モ。則天命
 ノ然ラシムル所ト。憂ヘズ愠ラズ。泰然トシテ
 天ノ定ルヲ待ツ。此君子難ニ處スルノ常ナリ。
 嗟予雖萬死豈忍與汝離屈伸付天地生死復奚疑
 嗟ハ歎息ノ辭ナリ。扱上ニ云如ク。君臣カ、ル

正氣歌俗解



奇禍ニ逢モ。是非ナキナガラ。固^{モト}君子ハ自分ノ行ニ不善アルコソ恥ナレ^レ。吾ニ不善ナク。外ヨリ来ル禍ハ。憂ヒザル所故。死ス^レ。汝ノ正氣ニ離^レス。伸ルモ屈^カマルモ。天地ノ造作ニ任セ。生ルモ死スルモ。心ニ疑念ナク。只^レ己レ正道ヲ守ルノミ。其餘ハ命ニ任スルナリ。

生當^レ雪^ク君^ノ冤^ヲ復^シ見^レ張^ラ綱^ヲ維^フ

扱君命未ダ盡ズ。天運ニ協ヒ。再ヒ世ニ出ル^レアラバ。第一ニ主君ノ汚名ヲ受玉ヒシヲ辨白シ。一旦ノ恥辱ヲ洗ヒ雪キ。其上三綱五常ノ人

倫ヲ講明シ。禮義廉恥ノ四維ヲハリ。天下ノ疲弊ヲ愈シ。元ノ神州ニ復シ。富强ノ國トナサシ^テ。吾志ナリ。

死^シ為^ル忠^ニ義^ニ鬼^ト極^ニ天^ノ護^ヲ

皇^ノ基^ヲ

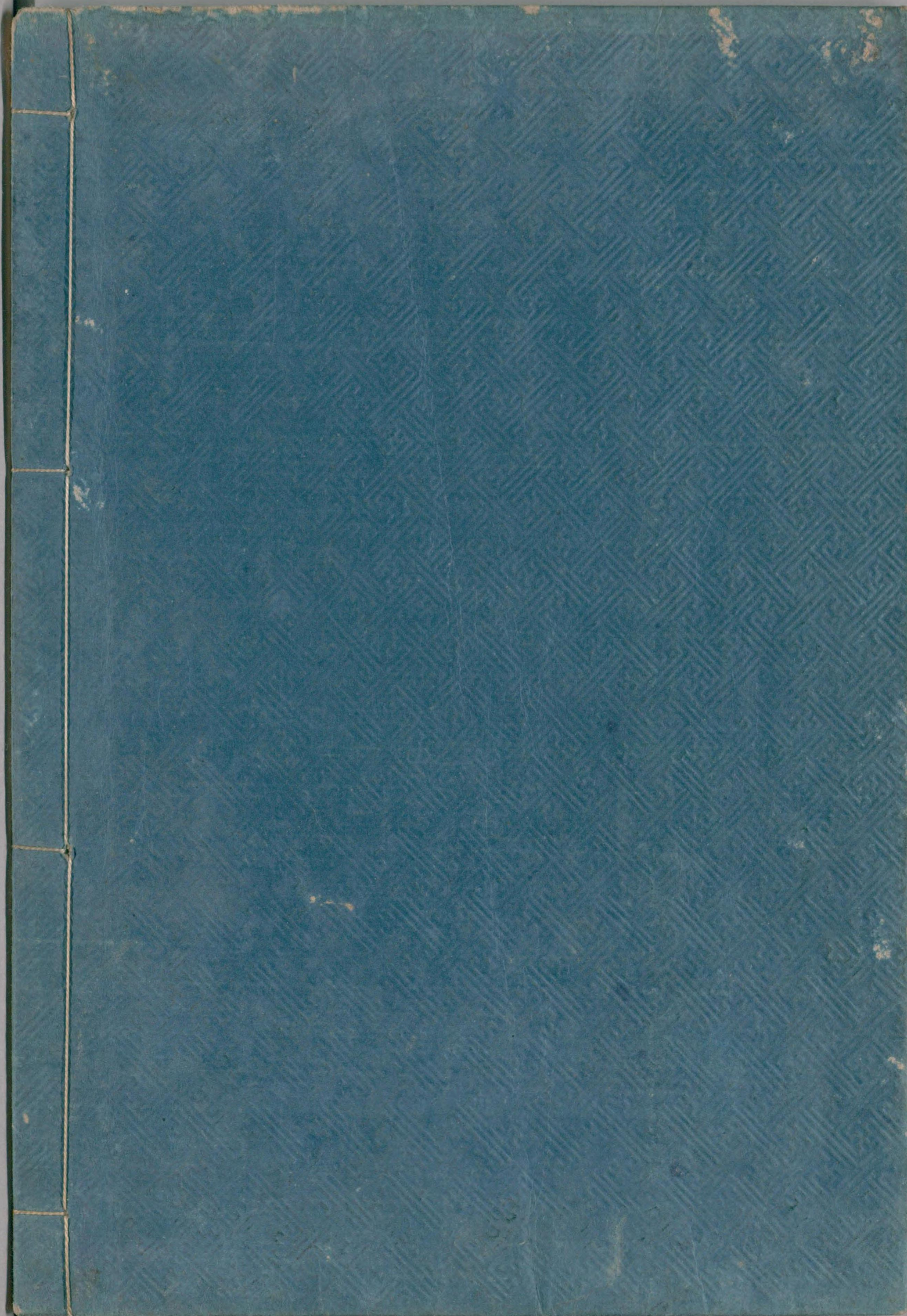
若^シ運至ラズシテ幽厄解^ケス。此マ、死^ハ亡スル^レアラバ。形骸ハ朽^ル。魂魄長ク此土ニ留^リ。忠義ノ亡^シ靈。天地ノ有^ン限^リ。九重ノ御守トナリ。且^ニ神州ノ道ヲ明ニシ。邪道ヲ拒^ク。生タル時ノ如ク。冥^クノ中ニ吾志ヲ伸^ン。死後ノ願^ハナリ。是生死屈伸。志ヲ撓^メズ。天下ノ汗隆



ヲ以テ自カラ任ズル先生ノ大器敬スルニ餘
レリ。抑君臣此時ノ難ハ其後ニ解ケ。再ヒ登庸
致セシモ其持論固ヨリ衆ト合ザレバ先生ノ
志業モ遂ニ施スヲ得ス。然レモ平生ノ緒論
不朽一存スレバ何ゾ其志ノ後世ニ伸ザルヲ
知シヤ。

正氣歌俗解終

木邨嘉平刻



国立国会図書館 タイトル『正気歌俗解』 請求記号 121.8-H982Ks

ガラス使用